

[解答例]

数学〔前期A方式(1/29)〕

I (1) (a) $x^4 - 2x^2 + 1$

$$= (x^2 - 1)^2$$

$$= \{(x+1)(x-1)\}^2$$

$$= (x+1)^2(x-1)^2$$

(b) $x^4 - 3x^2 + 1$

$$= (x^4 - 2x^2 + 1) - x^2$$

$$= (x^2 - 1)^2 - x^2$$

$$= (x^2 + x - 1)(x^2 - x - 1)$$

(2) Aさんがはじめに飼っていたうさぎの数を x 羽とすると、題意より

$$\begin{cases} \frac{3}{4}x > 36 - \frac{3}{4}x & \dots\dots ① \\ \frac{3}{4}x - 4 < 36 - \frac{3}{4}x + 4 & \dots\dots ② \end{cases}$$

となる。

①を解くと $x > 24$ となり、②を解くと $x < \frac{88}{3}$ となるので、 x の値の範囲は

$$24 < x < \frac{88}{3}$$

となり、これをみたま整数 x は 25, 26, 27, 28, 29 である。

ここで題意より、 x は 4 の倍数なので $x = 28$ を得る。すなわち、Aさんがはじめに飼っていたうさぎは 28 羽である。

(3) 袋 A を選ぶ事象を A 、袋 B を選ぶ事象を B 、白玉を選ぶ事象を W とし、条件を式で表すと以下のようになる。

$$P(A) = P(B) = \frac{1}{2}, P_A(W) = \frac{2}{5}, P_B(W) = \frac{1}{3}$$

よって、求める確率は

$$P_W(A) = \frac{P(A \cap W)}{P(W)}$$

$$= \frac{P(A \cap W)}{P(A \cap W) + P(B \cap W)}$$

$$= \frac{P(A)P_A(W)}{P(A)P_A(W) + P(B)P_B(W)}$$

$$= \frac{\frac{1}{2} \cdot \frac{2}{5}}{\frac{1}{2} \cdot \frac{2}{5} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3}} = \frac{\frac{1}{5}}{\frac{11}{30}} = \frac{6}{11}$$

I (4) 題意より、 $\angle ACB = 90^\circ$, $BC = 1$, $AC = \sqrt{3}$ となる。

(a) BC を直径とする円と MB および MC において、方べきの定理より

$$MP \cdot MB = MC^2 = \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 = \frac{3}{4}$$

また、 $\triangle MBC$ は直角三角形なので三平方の定理より

$$MB^2 = MC^2 + BC^2 = \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 + 1^2 = \frac{7}{4}$$

$MB > 0$ より $MB = \frac{\sqrt{7}}{2}$ となり、これを $MP \cdot MB = \frac{3}{4}$ に代入して

$$MP = \frac{3}{4} \cdot \frac{2}{\sqrt{7}} = \frac{3}{2\sqrt{7}} = \frac{3\sqrt{7}}{14}$$

よって

$$PB = MB - MP = \frac{\sqrt{7}}{2} - \frac{3\sqrt{7}}{14} = \frac{2\sqrt{7}}{7}$$

(b) $\triangle ABM$ と直線 CQ において、メネラウスの定理より

$$\frac{AQ}{QB} \cdot \frac{BP}{PM} \cdot \frac{MC}{CA} = 1$$

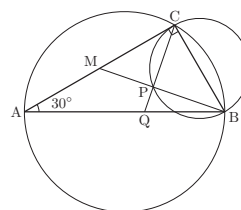
$$\frac{AQ}{QB} \cdot \frac{2\sqrt{7}}{7} \cdot \frac{\sqrt{3}}{\sqrt{3}} = 1$$

$$\frac{AQ}{QB} = \frac{3}{2}$$

ここで $AB = 2$ なので $AQ = \frac{6}{5}$ となる。

また $\triangle AQC$ の面積は

$$\frac{1}{2} \cdot AQ \cdot AC \cdot \sin 30^\circ = \frac{1}{2} \cdot \frac{6}{5} \cdot \sqrt{3} \cdot \frac{1}{2} = \frac{3\sqrt{3}}{10}$$



II (1) 与式を変形して

$$y = -(x+1)^2 + 3$$

よって、放物線の頂点の座標は $(-1, 3)$ で、軸の方程式は直線 $x = -1$

(2) 放物線 $y = f(x)$ を x 軸方向に 2, y 軸方向に -1 だけ平行移動するので

$$y + 1 = -\{(x-2) + 1\}^2 + 3$$

$$y = -(x-1)^2 + 2$$

$$= -x^2 + 2x + 1$$

(3) 2つの放物線の式を連立させて

$$-x^2 - 2x + 2 = -x^2 + 2x + 1$$

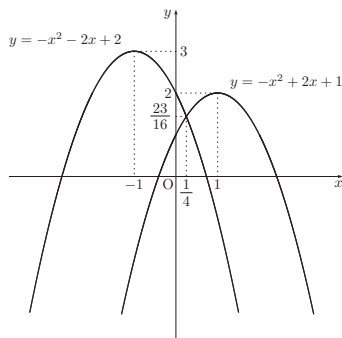
$$4x - 1 = 0$$

$$x = \frac{1}{4}$$

これを (1) の放物線の式に代入して

$$y = -\left(\frac{1}{4}\right)^2 - 2 \cdot \frac{1}{4} + 2 = \frac{23}{16}$$

よって、2つの放物線の共有点は $\left(\frac{1}{4}, \frac{23}{16}\right)$
ゆえに、グラフは以下の通り。



II (4) 直線 $y = -2x + b$ と $y = f(x)$ を連立させて

$$-2x + b = -x^2 - 2x + 2$$

$$x^2 + b - 2 = 0$$

この x の 2 次方程式の解の判別式は $D_1 = -4(b-2) = 8 - 4b$ となるので、共有点の個数は $b < 2$ のとき 2 個、 $b = 2$ のとき 1 個、 $b > 2$ のとき 0 個となる。

また同様に、この直線と $y = g(x)$ を連立させて

$$-2x + b = -x^2 + 2x + 1$$

$$x^2 - 4x + b - 1 = 0$$

この x の 2 次方程式の解の判別式は $D_2 = 16 - 4(b-1) = 20 - 4b$ となるので、共有点の個数は $b < 5$ のとき 2 個、 $b = 5$ のとき 1 個、 $b > 5$ のとき 0 個となる。

さらに、この直線が 2つの放物線の共有点を通るとき

$$\frac{23}{16} = -2 \cdot \frac{1}{4} + b$$

$$b = \frac{31}{16}$$

以上まとめると、求める共有点の個数は

$b < \frac{31}{16}$ のとき	4 個
$b = \frac{31}{16}$ のとき	3 個
$\frac{31}{16} < b < 2$ のとき	4 個
$b = 2$ のとき	3 個
$2 < b < 5$ のとき	2 個
$b = 5$ のとき	1 個
$5 < b$ のとき	0 個

III (1) 与式は

$$\begin{aligned} f(x) &= (-2x+a)^3 - 48(-2x+a) \\ &= -8x^3 + 12ax^2 + (96-6a^2)x + a^3 - 48a \end{aligned}$$

となるので

$$f'(x) = -24x^2 + 24ax + 96 - 6a^2$$

(2) $f(x)$ が $x=0$ で極値をとるので

$$f'(0) = 96 - 6a^2 = 0$$

$a < 0$ なので $a = -4$

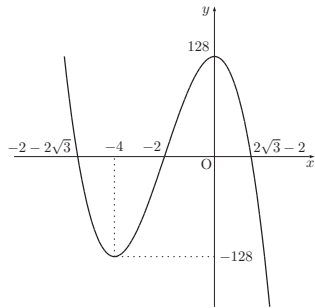
(3) $f(x)$ の式に $a = -4$ を代入すると、 $f(x) = -8x^3 - 48x^2 + 128$ となるので

$$f'(x) = -24x^2 - 96x$$

より $f'(x) = 0$ の解は $x = 0, -4$ となり、 $f(0) = 128$ および $f(-4) = -128$ となる。

以上より、増減表とグラフは以下の通り。

x		-4		0	
$f'(x)$	-	0	+	0	-
$f(x)$	\searrow	-128	\nearrow	128	\searrow



数学〔前期A方式(1/30)〕

- I (1) 表が0枚出る確率は ${}_4C_0 \left(\frac{1}{2}\right)^4 = \frac{1}{16}$
 表が1枚出る確率は ${}_4C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^4 = \frac{1}{4}$
 表が2枚出る確率は ${}_4C_2 \left(\frac{1}{2}\right)^4 = \frac{3}{8}$
 (a) 以上より、表が1枚または2枚出る確率は

$$\frac{1}{4} + \frac{3}{8} = \frac{5}{8}$$

 (b) 裏が2枚以上出るのは表が2枚以下の場合なので、その確率は

$$\frac{1}{16} + \frac{1}{4} + \frac{3}{8} = \frac{11}{16}$$
- (2) $2023 = 7 \times 17^2$ と素因数分解できる。
 また、 $2023_{(5)}$ を10進数にすると

$$2 \times 5^3 + 0 \times 5^2 + 2 \times 5^1 + 3 \times 5^0 = 263$$

 $2023_{(7)}$ を10進数にすると

$$2 \times 7^3 + 0 \times 7^2 + 2 \times 7^1 + 3 \times 7^0 = 703$$
- (3) $1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$ に $\tan \theta = -\frac{1}{\sqrt{7}}$ を代入して $\cos^2 \theta = \frac{7}{8}$
 よって $\sin^2 \theta = 1 - \cos^2 \theta = \frac{1}{8}$
 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ なので $\sin \theta \geq 0$ より $\sin \theta = \frac{\sqrt{2}}{4}$
 以上より、
 (a) $\sin \theta + \cos^2 \theta = \frac{\sqrt{2}}{4} + \frac{7}{8} = \frac{7+2\sqrt{2}}{8}$
 (b) $(\cos \theta - \sin \theta)(\cos \theta + \sin \theta) - \sin \theta$
 $= \cos^2 \theta - \sin^2 \theta - \sin \theta$
 $= \frac{7}{8} - \frac{1}{8} - \frac{\sqrt{2}}{4}$
 $= \frac{3-\sqrt{2}}{4}$

- I (4) (a) $\triangle ABC$ の面積が2なので

$$\frac{1}{2}(\sqrt{6} + \sqrt{2})(\sqrt{6} - \sqrt{2}) \sin \angle BCA = 2$$

$$\frac{6-2}{2} \sin \angle BCA = 2$$

$$\sin \angle BCA = 1$$

 (b) $\sin \angle BCA = 1$ と $0^\circ < \angle BCA < 180^\circ$ より $\angle BCA = 90^\circ$
 $\triangle ABC$ において、三平方の定理より

$$AB = \sqrt{(\sqrt{6} + \sqrt{2})^2 + (\sqrt{6} - \sqrt{2})^2} = 4$$

 ここで、 AB は $\triangle ABC$ の外接円の直径なので

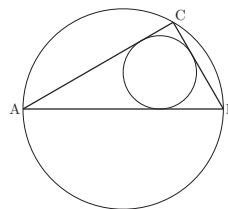
$$R = \frac{1}{2}AB = 2$$

 (c) $\triangle ABC$ の面積を r を用いて表すと

$$\frac{1}{2}r(AB + BC + AC) = 2$$

 となるので

$$r = \frac{4}{AB + BC + AC} = \frac{2}{2 + \sqrt{6}} = \sqrt{6} - 2$$



- II (1) $f(x) = x^2 - ax - 6x + 6a$ とおく。
 $f(x) = (x-a)(x-6)$ となるので、 $f(x) = 0$ の解は $x = a, 6$
 これらが $4 \leq x \leq 7$ の範囲にあればよい。
 $x = 6$ はこれをみただので、 $4 \leq a \leq 7$ であればよい。
- (2) 与式は $f(x) = \frac{1}{2}$ と変形できる。
 $y = f(x)$ のグラフは、 $a = 4$ および $a = 7$ のとき下図のように x 軸と2点で交わる。
- $a = 4$ のとき

$a = 7$ のとき
- a の値が $4 \leq a \leq 7$ の範囲で変わるとき、 $y = f(x)$ のグラフと x 軸の2つの共有点の x 座標は6と $4 \leq x \leq 7$ の値をとる。
 このように変化するグラフと直線 $y = \frac{1}{2}$ が $4 \leq x \leq 7$ の範囲に共有点を2つもてばよいので
 $f(4) = \frac{1}{2}$ のとき

$$f(4) = (4-a)(4-6) = 2(a-4) = \frac{1}{2}$$

 より $a = \frac{17}{4}$
 $f(7) = \frac{1}{2}$ のとき

$$f(7) = (7-a)(7-6) = 7-a = \frac{1}{2}$$

 より $a = \frac{13}{2}$
 これらは(1)で求めた a の値の範囲をみただので、求める値の範囲は

$$\frac{17}{4} \leq a \leq \frac{13}{2}$$

- III (1) $y = x(1-x)$ と $y = mx$ の共有点の座標は

$$x(1-x) = mx$$

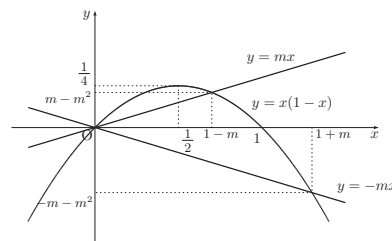
$$x(x+m-1) = 0$$

 より、 $(0, 0)$ と $(1-m, m-m^2)$
 また、 $y = x(1-x)$ と $y = -mx$ の共有点の座標は

$$x(1-x) = -mx$$

$$x(1+m-x) = 0$$

 より、 $(0, 0)$ と $(1+m, -m-m^2)$
 (2) $y = x(1-x)$ のグラフは頂点 $(\frac{1}{2}, \frac{1}{4})$ の放物線になるので、放物線と2つの直線は以下の通り。



III (3)

$$\begin{aligned}
 S_1 &= \int_0^{1+m} \{x(1-x) + mx\} dx \\
 &= \left[\frac{1+m}{2} x^2 - \frac{x^3}{3} \right]_0^{1+m} \\
 &= \frac{(1+m)^3}{6}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 S_2 &= \int_0^{1-m} \{x(1-x) - mx\} dx \\
 &= \left[\frac{1-m}{2} x^2 - \frac{x^3}{3} \right]_0^{1-m} \\
 &= \frac{(1-m)^3}{6}
 \end{aligned}$$

(4)

$$\begin{aligned}
 S_m &= S_1 - S_2 \\
 &= \frac{(1+m)^3 - (1-m)^3}{6} \\
 &= \frac{m^3}{3} + m
 \end{aligned}$$

$f(m) = S_m$ とおくと、 $f'(m) = m^2 + 1$ となり $f(m)$ は単調増加関数である。

よって、 $0 < m \leq \frac{1}{2}$ の範囲では、 $m = \frac{1}{2}$ のとき S_m は最大となる。

そのときの S_m の値は

$$S_m = \frac{1}{3} \left(\frac{1}{2} \right)^3 + \frac{1}{2} = \frac{13}{24}$$

数学〔前期B方式(1/31)〕

設問	解答例	
I	ア ア	18
	イ	2
	ウ	5
	エ	4
	オ	5
	キ	2
	ク	9
	ケ	5
	コ ㊦	13
	シ ㊦	14
	セ	3
	ソ ㊦	11
	チ ㊦	-4
	テ	2
	ト	3
	㊦	2
	㊦ ㊦	12
	㊦	4
	㊦	6
	㊦ ㊦	10
	㊦ ㊦	70
	㊦ ㊦ ㊦	120
	㊦ ㊦	12
	㊦ ㊦	10
	㊦ ㊦	45
	㊦ ㊦	44
	㊦	2
	㊦	8
	㊦	6
	㊦ ㊦	16
	㊦	8
	㊦ ㊦	24
II	ア	1
	イ	8
	ウ	8
	エ	7
	オ	7
	㊦	2
	キ	5
	ク	3
	ケ	2
	コ	4
	㊦	2
	シ	2
	㊦	2
	セ	3
	ソ	7
	㊦	3
	チ	2
	㊦	2
テ	7	
ト	5	

設問	解答例	
III	ア	3
	イ	2
	ウ	1
	エ	2
	オ	3
	㊦	4
	キ	2
	ク	3
	ケ	3
	コ	3
	㊦	6
	シ	3
	㊦	3
	セ	3
	ソ	3
	㊦	3
	チ	1
	㊦	3
	テ	2
	ト	3
	㊦	6
	㊦	6
	㊦	3
	㊦	3
㊦	6	

数学〔前期A方式 1/29〕

I

(1)(a) 与式 $= (x^2 - 1)^2 = \{(x+1)(x-1)\}^2 = (x+1)^2(x-1)^2$

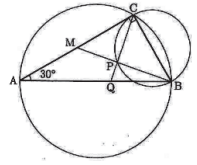
(b) 与式 $= (x^4 - 2x^2 + 1) - x^2 = (x^2 - 1)^2 - x^2 = (x^2 + x - 1)(x^2 - x - 1)$

(2) はじめにAさんがx羽のうさぎを飼っていたとすると、 $\frac{3}{4}x > 36 - \frac{3}{4}x$ ……①、 $\frac{3}{4}x - 4 > 36 - \frac{3}{4}x + 4$ ……②

①、②をみたす整数xは25、26、27、28、29であるが、問題文よりxは4の倍数であるため、 $x = 28$

(3) 袋Aを選ぶ事象をA、袋Bを選ぶ事象をB、白玉を選ぶ事象をWとすると、求める確率は、

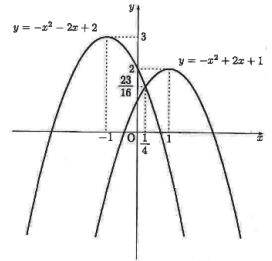
$$P_W(A) = \frac{P(A \cap W)}{P(W)} = \frac{P(A)P_A(W)}{P(A)P_A(W) + P(B)P_B(W)} = \frac{\frac{1}{2} \cdot \frac{2}{5}}{\frac{1}{2} \cdot \frac{2}{5} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3}} = \frac{\frac{1}{5}}{\frac{11}{30}} = \frac{6}{11}$$



(4)(a) $\angle ACB = 90^\circ$ 、 $BC = 1$ 、 $AC = \sqrt{3}$ である。

方べきの定理より $MP \cdot MB = MC^2$ 、三平方の定理より $MB^2 = MC^2 + BC^2$ が成り立つ。

(b) メネラウスの定理より $\frac{AQ}{QB} \cdot \frac{BP}{PM} \cdot \frac{MC}{CA} = 1$ また、 $\triangle AQC = \frac{1}{2} \cdot AQ \cdot AC \cdot \sin 30^\circ$



II

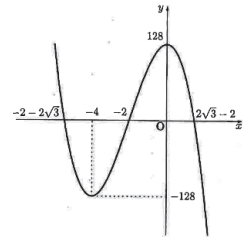
(2) $y + 1 = -\{(x-2) + 1\}^2 + 3$ より、 $y = -x^2 + 2x + 1$

(3) $f(x) = -x^2 - 2x + 2$ と $g(x) = -x^2 + 2x + 1$ を連立させた式より、 $x = \frac{1}{4}$

これを $f(x)$ に代入して、 $y = \frac{23}{16}$ よって、共有点の座標は、 $(\frac{1}{4}, \frac{23}{16})$

(4) 直線 $y = -2x + b$ と $f(x)$ を連立させて、 $x^2 + b - 2 = 0$ この x の2次方程式の解の判別式 $D = 8 - 4b$ より、 b の値の範囲と共有点の個数の関係が得られる。 $g(x)$ についても同様に求める。

また、直線が $(\frac{1}{4}, \frac{23}{16})$ を通るとき、2つの放物線と直線の共有点の個数は3個となる。



III

(2) $x = 0$ で極値をとるので、 $f'(0) = 96 - 6a^2 = 0$ $a < 0$ より $a = -4$

(3) 与式に $a = -4$ を代入して、 $f(x) = -8x^3 - 48x^2 + 128$

また、 $f'(x) = -24x^2 - 96x = 0$ より、 $x = 0, -4$

x		-4		0	
$f'(x)$	-	0	+	0	-
$f(x)$	\searrow	-128	\nearrow	128	\searrow

数学〔前期A方式 1/30〕

I

(1)(b) 裏が2枚以上出るとき、表の枚数は2枚以下であるため、求める確率は ${}_4C_0(\frac{1}{2})^4 + {}_4C_1(\frac{1}{2})^4 + {}_4C_2(\frac{1}{2})^4 = \frac{1}{16} + \frac{1}{4} + \frac{3}{8} = \frac{11}{16}$

(2) $2023 = 7 \times 17^2$ と素因数分解できる。また、 $2023_{(5)} = 2 \times 5^3 + 0 \times 5^2 + 2 \times 5^1 + 3 \times 5^0 = 263$ 同様に求めて、 $2023_{(7)} = 703$

(3)(a) $1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$ より、 $\cos^2 \theta = \frac{7}{8}$ また、 $\sin^2 \theta = 1 - \cos^2 \theta = \frac{1}{8}$ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ より、 $\sin \theta = \frac{\sqrt{2}}{4}$

(b) 与式 $= \cos^2 \theta - \sin^2 \theta - \sin \theta$

(4)(a) $\frac{1}{2} \cdot AC \cdot BC \cdot \sin \angle BCA = 2$ より、 $\sin \angle BCA = 1$

(b) $0^\circ \leq \angle BCA \leq 180^\circ$ より、 $\angle BCA = 90^\circ$ であるから、 $\triangle ABC$ において三平方の定理を用いて AB を求める。

(c) $\triangle ABC = \frac{1}{2} r(AB + BC + AC) = 2$ より、 r を求める。

II

(1) $f(x) = x^2 - ax - 6x + 6a$ とおくと、 $f(x) = (x-a)(x-6)$ と因数分解できるから、 $f(x) = 0$ の解は $x = a, 6$
 $x = 6$ は $4 \leq x \leq 7$ をみたすから、 $4 \leq a \leq 7$ であればよい。

(2) 与式は $f(x) = \frac{1}{2}$ と変形できる。 $y = f(x)$ のグラフは $a = 4$ のとき $x = 4, 6$ で、 $a = 7$ のとき $x = 6, 7$ で x 軸と交わる。このグラフと $y = \frac{1}{2}$ が

$4 \leq x \leq 7$ の範囲に共有点を2つもてばよい。 $f(4) = \frac{1}{2}$ のとき $a = \frac{17}{4}$ 、 $f(7) = \frac{1}{2}$ のとき $a = \frac{13}{2}$ これらは(1)の範囲をみたすから、 $\frac{17}{4} \leq a \leq \frac{13}{2}$

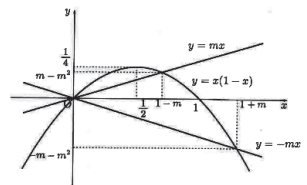
III

(1) $y = x(1-x)$ と $y = mx$ の共有点の座標は、 $x(1-x) = mx$ より、 $(0, 0)$ と $(1-m, m-m^2)$
 $y = -mx$ との共有点も同様に求める。

(2) $y = x(1-x) = -(x - \frac{1}{2})^2 + \frac{1}{4}$ と変形できるから、放物線の頂点は $(\frac{1}{2}, \frac{1}{4})$

(3) $S_1 = \int_0^{1+m} \{x(1-x) + mx\} dx$ 、 $S_2 = \int_0^{1-m} \{x(1-x) - mx\} dx$ より求める。

(4) $Sm = \frac{m^3}{3} + m$ $f(m) = Sm$ とおくと $f'(m) = m^2 + 1 > 0$ であるから、 $0 < m \leq \frac{1}{2}$ の範囲で Sm が最大となるのは $m = \frac{1}{2}$ のときである。



数学〔前期B方式 1/31〕

I

[1] (1) $(2a-3b)^2=4a^2-12ab+9b^2=42$ と、 $(2a+3b)^2=4a^2+12ab+9b^2$ を利用して求める。

(2) $|x-p| > q$ の解は、 $x < p-q=4\sqrt{5}-2$ 、 $x > p+q=9+\sqrt{5}$ である。

これと $\frac{11}{2} < x < r$ をともに満たす3個の整数は、6、12、13であるから、 $13 < r \leq 14$

[2] (2) 平行移動後の関数は、 $y=(x-b-3)^2+2$ であるから、 $b=-4$ のとき $f(x)=(x+1)^2+2$ 、 $b=2$ のとき $g(x)=(x-5)^2+2$

(i) $m_1=f(t)=t^2+2t+3$ 、 $m_2=g(t+1)=t^2-8t+18$ より $m_1=m_2$ となる t を求める。

(ii) $g(x)$ のグラフの頂点の x 座標は5であるから、 $\frac{t+t+1}{2} < 5$ の場合と $\frac{t+t+1}{2} \geq 5$ の場合に分けて考える。

$$\frac{t+t+1}{2} < 5 \text{ のとき } M_1=f(t+1), M_2=g(t), \frac{t+t+1}{2} \geq 5 \text{ のとき } M_1=f(t+1), M_2=g(t+1)$$

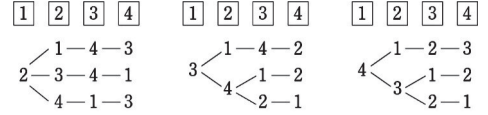
[3] (2) 偶数の球を偶数の箱に入れる入れ方は $2!$ (通り)、奇数の場合は $3!$ (通り) であるから、 $2! \times 3! = 12$ (通り)

(3) (ii) 1個の球の選び方は5通りである。例えば、5の球を5の箱に

入れる場合、残り4球の入れ方は右図の9通り。

よって、 $5 \times 9 = 45$ (通り)

(iii) 1から5個の球が同じ番号の箱に入る場合の数、それぞれの和を全部の入れ方から引けばよい。



[4] (1) $30+b$ が4の倍数のとき、 $1a3b$ は4で割り切れる。また、 $1+a+3+b$ が9の倍数のとき、 $1a3b$ は9の倍数である。

(2) $1836=2^2 \cdot 3^3 \cdot 17$ であるから、2の倍数の個数は $2 \cdot 3^3 \cdot 17$ の正の約数の個数と等しく、4の倍数の個数は $3^3 \cdot 17$ の正の約数の個数と等しい。また、1836のすべての正の約数の積 N を2進法で表した際、末尾に並ぶ0の個数は、 N がもつ素因数2の個数に等しい。その数は、2の倍数の個数16と4の倍数の個数8を足した24である。

II

(2) 方べきの定理より $AD \cdot DE = BD \cdot DC$ また、弧 AC の円周角より $\cos \angle AEC = \cos \angle ABC$ である。

(3) $\triangle AEP$ と直線 CD にメネラウスの定理を用いて、 $\frac{ED}{DA} \cdot \frac{AC}{CP} \cdot \frac{PQ}{QE} = 1$ また、点 G は重心であるから $\frac{PG}{GE} = \frac{1}{2}$

III

(1) $0 \leq a \leq \beta \leq \frac{\pi}{2}$ より、 $0 \leq \beta - a \leq \frac{\pi}{2}$ であるから、 $0 \leq \cos(\beta - a) \leq 1$

(2) $\cos 2\beta = \cos 2(a + \frac{\pi}{3})$ を計算し、 y の式に代入する。

(3) (2) の y の式について三角関数を合成すると、 $y = -6\sin(2a - \frac{\pi}{6})$

$0 \leq a \leq \frac{\pi}{6}$ より、 $-3 \leq y \leq 3$ となる。 y が最小になるのは、 $2a - \frac{\pi}{6} = \frac{\pi}{6}$ のときである。

